

**研究代表者** 白阪 琢磨 (国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター)

**研究協力者** 山崎 厚司 (公益財団法人エイズ予防財団)  
 中村ひとみ (公益財団法人エイズ予防財団)  
 辻 宏幸 (公益財団法人エイズ予防財団、  
 国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター)

**研究要旨** 令和2年度に「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」で行った大阪市民5,665人を対象とした調査によると、最近2年間にHIV/エイズに関する情報に接した者は920人16.2%で、341人37.1%が24歳未満の若者であった。また、接した媒体としては、学校の授業が最も多く256人27.8%であった。これらのことから、多くの高校ではHIV/エイズを含むテーマが授業で取り上げられていることが推察された。そこで、高校の授業を補完し、正しい知識の定着を図るため、高校生世代に向けた啓発を実施するとともに、高校の授業で活用される教材を開発する。  
 啓発の実践として、FM放送を利用し、啓発ミニ番組の放送及びスポットCMを行った。また、高校生世代向け教材の開発として、HIV/エイズに特化したオンライン学習システム開発の検討を行った。

### 研究目的

令和2年度に「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」で行った大阪市民5,665人を対象とした調査によると、最近2年間にHIV/エイズに関する情報に接した者は920人16.2%で、341人37.1%が24歳未満の若者であった。また、接した媒体としては、学校の授業が最も多く256人27.8%であった。これらのことから、多くの高校ではHIV/エイズを含むテーマが授業で取り上げられていることが推察された。そこで、高校の授業を補完し、正しい知識の定着を計るため、高校生世代に向けた啓発を実施するとともに、高校の授業で活用される教材を開発し、後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(平成30年1月18日)に記された「感染に関する正しい知識を普及できるように、学校教育及び社会教育との連携を強化して、対象者に応じた効果的な教育資材の開発等により、具体的な普及啓発活動を支援するように努める」に資することを目的とした。

### 研究方法

#### 1) 高校生世代に向けた啓発の実践

FM放送を利用し、若者に人気の番組中及び番組終了直後の時間帯に、HIV/エイズ啓発のミニコーナーを放送する。内容は、HIV/エイズに関する基礎知識や検査情報、10代へのインタビューなどとする。また、若年リスナーの多い時間帯である夕方～夜間にスポットCMとして啓発メッセージを放送する。

#### 2) 高校生世代向け教材の開発

これまであったような冊子の副教材ではなくオンライン学習システムとするため、既存eラーニングシステムの調査を行う。また、学習指導要領、教科書、教職員のための指導の手引等資料の記載内容の確認を行う。保健体育科教諭、養護教諭等にアンケート調査を行うなど、協力を仰ぐ。

#### (倫理面への配慮)

啓発の実施にあたっては、HIV陽性者を含む、目にしたすべての人に不快感を与えない内容とするよう配慮する。

## 研究結果

### 1) 高校生世代に向けた啓発の実践

FM 大阪を利用し、以下の通り啓発を行った。

#### ①啓発コーナーの放送

番組名：「SCHOOL OF LOCK!」

コーナー名：「LOVE+RED for TEENS」

放送日：5月28日、6月4日、11日、18日、

11月26日、12月3日、10日、17日

放送時間：22:55～23:00、23:55～24:00

放送内容：DJと大学生によるHIV/エイズに関する基礎知識や検査情報に関するトーク。大学生と吉本芸人によるトークやイベント情報など。

#### ②スポットCM放送

種類：20秒CM×5タイプ

放送期間：5月28日～6月30日（HIV検査普及週間）

11月26日～12月31日（世界エイズデー）

放送本数：各期間60回

内容：

- (1)「今、HIVでは死にません」エイズの治療はとてども進歩し、適切な治療をうければ以前と変わらない暮らしをおくることができるようになりました。知識をアップデートしてエイズへの偏見をなくしましょう。エイズ予防財団はHIV/エイズの啓発を推進しています。
- (2) エイズの発見から今年で40年。治療は飛躍的に進歩し、今では、適切な治療を続ければ、性行為による感染も防げるようになりました。「正しい理解は正しい情報から。」エイズ予防財団はHIV/エイズの啓発を推進しています。
- (3)現在、全世界のHIV感染者はおよそ3,800万人、日本国内でも3万人以上が感染していると推計されています。感染ルートで最も多いのは性的接触です。コンドームの着用は、誰でもできる簡単で効果的な予防方法です。エイズ予防財団はHIV/エイズの啓発を推進しています。
- (4) 6月1日から7日はHIV検査普及週間です。HIVに感染しているかどうかは、HIV検査でしか分かりません。保健所のHIV検査は、誰でも無料、匿名で受けられます。「検査を受けよう」エイズ予防財団はHIV/エイズの啓発を推進しています。
- (5) 早期発見、早期治療は自分とパートナーを守るためにも大切なこと。HIV/AIDSは、誰にでも関係のある病気であることを知ってください。HIV検査は不要不急ではありません。エイズ予防財団はHIV/エイズの啓発を推進しています。

※ (4) のメッセージはHIV検査普及週間のみ

### 2) 高校生世代向け教材の開発

eラーニングシステムについて検討した。研究期間終了後の運用に備えるため、日本製オープンソースのeラーニングシステム iroha Board を利用することとし、エイズ予防財団作成パンフレット「HIV/エイズの基礎知識」を基に、オンライン学習システムの試作にとりかかった。

高校保健体育科教諭、養護教諭らへのアンケート調査について、内容を検討し、システムの試作版が完成後行うこととした。

## 考察

メディアを利用した啓発の実施による効果を直接的に測ることは難しい。放送日にエイズ予防財団YouTube動画視聴数の増加が観察されたが、放送によるものと断定することはできない。

エイズに対する偏見や差別を解消するためには、学校での学習機会に合わせた啓発が効果的であると考えられる。

## 結論

HIV・エイズに関する情報に触れる機会は少なく、エイズに対する偏見や差別を解消するためには、学校での学習機会に合わせた啓発が効果的であると考えられ、適切な教材の開発と啓発の継続が必要である。

## 健康危険情報

該当なし

## 研究発表

該当なし

## 知的財産権の出願・取得状況（予定を含む）

該当なし